

# 校長通信 (特別号)

March / 1st / 2025 / VOL 029

## 令和6年度 第56回 卒業証書授与式 式辞

校庭の木々の芽もほころびはじめ、たしかな春の息吹を感じる今日の佳き日に、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに第56回卒業証書授与式を、盛大に挙行できますことは、大きな喜びであり、教職員を代表し、厚く御礼申し上げます。

さて、ただいま呼名された230名の卒業生の皆さん。誠実、友愛、勇気の校訓のもと、学習、学校行事、部活動、生徒会活動等に熱心に取り組み、3ヵ年の教育課程を無事修了されました。この3年間のさまざまな光景が、皆さんの心の中で、蘇っていることと思います。今日のこの卒業式は、みなさん一人ひとりにとって、自分の将来への夢や希望に胸を膨らませ、自覚と決意を新たに、今後力強く、たくましく、それぞれの人生を歩むための大事なスタートとなります。旅立ちを目の前にするみなさんに、私から最後に言葉を贈りたいと思います。

人は出会い。私の恩師から、かつていただいた言葉です。私たちは人生において、さまざまな人と出会います。出会うことで、新たに学び、変わり、成長していきます。人生を変えてしまうような、その先の未来を左右するような大きな出会いもあります。皆さんもこの3年間で数多くの出会いがあったと思いますが、今の自分にどのように繋がっているのでしょうか。

経済産業省の調査によると、人は一生のうちどれだけの人と出会うかを計算すると、約3万人と言われているようです。人の一生を80年として、毎日1人と出会うと仮定した場合の数ですが、世界や日本の人口から考えても、出会いの数はほんのわずかということがわかります。3万人しかいないのです。皆さんが学び成長していくためには、同じような人とだけの出会いでは、もったいないことがわかります。いろんな人と出会うことです。多様な価値観を持つ人、自分とはまったく異なる人生を歩んだ人、国も文化も違う人と出会うことで、私たちは新たな価値観を学び、新たな視野やモノの見え方を身につけることができます。だからこそ、とどまらず、枠の外側へと踏み出していかなければなりません。その越境の先に、多くの出会いと、新しい自分が待っています。

反対の視点で考えてみるとどうでしょうか。私たちは誰かの出会いの3万分の1ということになります。その出会いをその人にとって、どのようなものにしたいでしょうか。日本の著名な詩人である「相田みつを」さんの詩の中に、次の作品があります。

「めぐりあい」

あなたにめぐりあえてほんとうによかった  
たったひとりでもいい  
そういつてくれるひとがあれば

卒業する皆さんと会えて、私たち教職員は本当によかったと思っています。御殿場西高校を選んでくれて、ありがとうございました。御殿場西高校で3年間共に学んでくれて、ありがとうございました。御殿場西高校の一部になってくれて、ありがとうございました。これからも、あなたに出会えてよかったと思われる、そんな人であって欲しいと願っています。

最後になりますが、保護者の皆様、3年間本校の教育活動に対し、ご理解と、温かいご支援ご協力をいただき、本当にありがとうございました。この3年間、生徒たちは成功、達成、失敗、挫折、さまざまなことを経験し、笑ったことも、泣いたこともたくさんあったと思います。この3年間の日々は、これから困った時、迷った時、背中を押してくれる力となっていきます。3年生の努力があったからこそ、今の御殿場西高校があります。そんな生徒たちを3年間ご家庭で支えてくださり、本当にありがとうございました。

さあ、卒業生の皆さん。一旦のお別れとなります。御殿場西高校は、皆さんのホームです。これから先、どれほど時が流れても、皆さんがどんなに変わってしまっても、ここがみなさんの母校であること、戻って来れる場所であることは変わりません。私たち教職員の生きがいは、卒業したかつての教え子が、成長した姿で学校を訪れてくれることです。学校でまた会える日を楽しみにしています。輝く未来における、みなさんそれぞれの活躍を心より祈念し、式辞といたします。

## 表彰式 式辞

3年生の皆さん、今日は表彰式おめでとうございます。多くの生徒が、3年間における努力や学校への貢献を認められ、こうして表彰をされたことは、大変素晴らしいことであり、心より祝福いたします。呼名され、壇上で賞状を受け取った生徒の皆さん、本当におめでとうございます。呼名されなかったとしても、なんらかの形で学校、学級、地域、他の方々に対し貢献してきてくれた皆さん、本当にありがとうございました。今日の表彰式は三年生全員のための場であり、またみなさんを支える三年部を中心とする先生方のための日だと思います。いろんな人たちの支えがあって今日の自分がいるということ、これからも忘れず、感謝と謙虚さを持ち、これからの未来を歩んでもらいたいと思います。

さて、「全盛期」という言葉を耳にしたことがあるかと思います。様々な業界で使われますが、例えばスポーツの世界では、選手のベストパフォーマンスが出来る時期であり、歌手であれば、最も力強く人々の心に響く声で歌える時期を指します。その人が最も輝いていた時期と言っても良いと思います。おそらく、全盛期は全ての人が人生の中に持つ、最高地点であり、最高の自分ということとなるのだと思います。

今日ここにいるみなさんの人生の全盛期はいつですか？御殿場西高校のこの3年間の中にあっただいしょうか？さまざまなシーンが頭の中に残っていると思います。輝いた瞬間、成功を実感した瞬間、努力が報われた瞬間。輝く自分の姿、努力が報われて安堵と感激の感情が入り混じる表情、人生最高の時だと言えるような達成感。そんな全盛期が、御殿場西高校の3年間にあったら最高だと思います。

最高だと思いつつも、私は三年生の皆さんにはさらに先を見てもらいたいと思っています。過去の自分が全盛期なのではなく、今日の自分、そして、これからの自分が全盛期です。私は、この考え方は間違いないと思っています。人は学び経験したことで出来上がっていきます。昨日よりも今日、今日よりも明日、自分は強くなっていきます。うまく行っていないように感じる時も、変わり映えがないと感じる時も、私たちは確実に成長し、強くなっていきます。自分史上最高は今日の自分です。過去の自分の方が良かったなんてことはあるわけがありません。そしてこれからがみなさんの全盛期、もっともっと力強く輝き、躍動する時が待っています。その時のために、今日できる努力を全力でやっていくのです。こんなふうな今の自分を認め、今日の自分が最高だということを誇りに思って、これから生きて行って欲しいと思います。

さぁ、明日は卒業式です。御殿場西高校での最後の1日です。みなさんの最高の自分をぜひ見せてもらいたいですし、みなさんの保護者の方々にも最高の姿を見せてもらいたいと思います。胸いっぱい感謝の気持ちとともに、明日会えることを楽しみにしています。



## 保護者の皆様へ

3年間、御殿場西高校の教育活動に対し、ご理解いただき、温かいご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。本日、230名の卒業生が、本校を巣立っていきました。3年前の入学式を今でも鮮明に覚えています。コロナが大流行する中で、皆がバタバタしながら高校生活が始まりました。

3年間、社会の変化や時代の変化も重なり、まさに予測不能な一面も感じながら、生徒たちはそれぞれ自立し、成長していったと思います。私たち教職員は、3年生の皆さんと出会ったことを心から嬉しく思っています。本校を選んでくれたこと、本校で学んでくれたこと、本校の一部となってくれたことに、心から感謝しています。また、いつでも戻ってきてもらいたいと思います。どんなに時が流れても、どれほど変わってしまっても、御殿場にし高校は皆さんのホームです。

